

温暖化に打ち勝つ高着色性早生系統 「リンゴ福島8号」の育成

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－リンゴ－育種・選抜

2 担当者名

岡田初彦、三田村諭、芝祥太郎

3 要旨

温暖化の影響により本県産リンゴの果実品質の低下が懸念されている。特に高温の夏場に収穫される早生品種の「つがる」については、近年着色不良の発生が頻発しており、気温に左右されない高着色性の品種が求められている。さらに、リンゴの生産振興と経営の安定を図るため「ふじ」に偏重した品種構成の改善と「ふじ」の受粉樹として活用でき、品質の優れた品種の選抜を目標として、着色が容易で食味が良好な「リンゴ福島8号」を育成した。

- (1) 開花盛期は4月28日で「ふじ」より2日遅いが、「ふじ」との交配親和性がある。開花盛期から収穫盛期までの成熟日数は123日であり、「芳明つがる」より2日短い。
- (2) 果実品質は、果形は円錐形で、果肉色は黄白、果皮色は暗赤色で高温条件であった直近の2か年とも濃く着色した(図1)。果叢葉数が少ないせいか着色管理をしなくても全面に色が回る。果肉はやや粗く、硬度は「芳明つがる」より高く硬めである。蜜入りはわずかに見られる場合がある。心カビの発生は少。収穫が遅れるとこうあ部またはがくあ部から縦に裂果する場合がある。2017～2019年の過去3か年における平均果実重は325g、平均糖度は14.2°Brix、リンゴ酸は0.26g/100ml、硬度14.5lbs.、地色5.7、デンプン指数3.0である。果汁はやや少ないが、甘味多く、食味は良好である。香りは中程度。
- (3) 貯蔵による硬度推移は、1℃または4℃冷蔵保存ともに「芳明つがる」よりも高く保たれており、早生としては日持ち性が高かった。



図1 「リンゴ福島8号」の結実状況(2019年)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 県オリジナル果樹品種の育成

5 主な参考文献・資料

なし